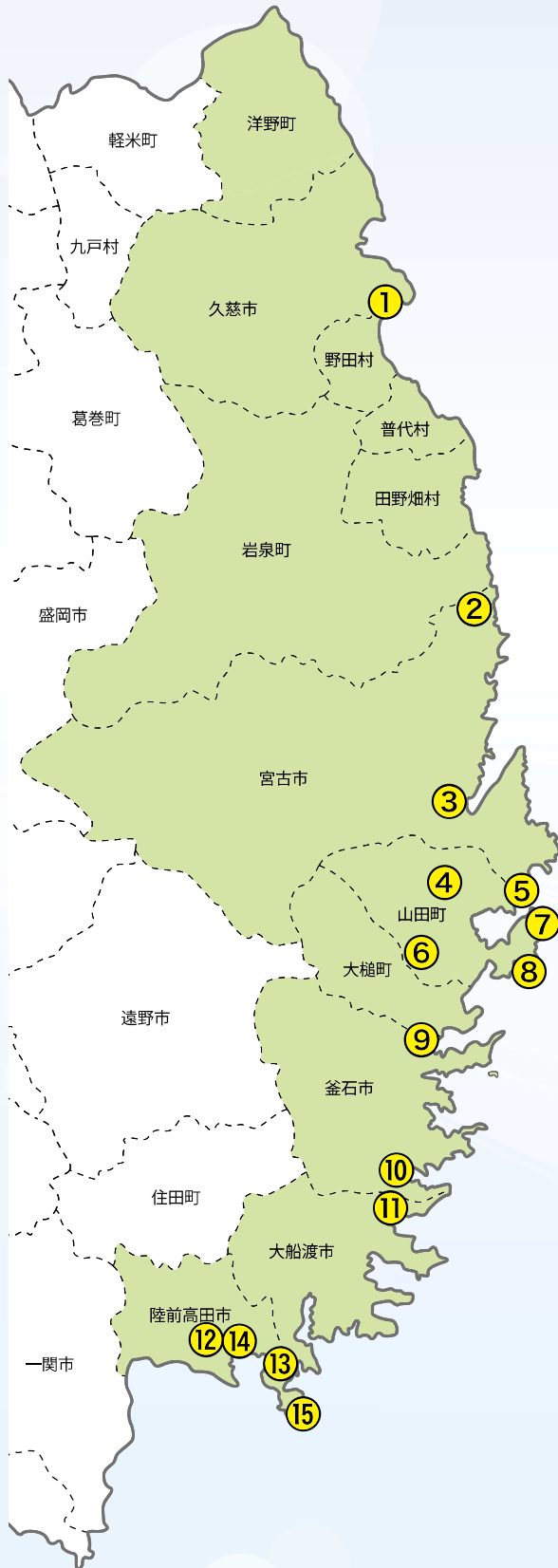


3 農用地災害復旧関連区画整理事業の実施状況

農用地災害復旧関連区画整理事業の位置図



- ① 宇部川地区 (1～4ブロック)
- ② 宮古地区 (摂待工区)
- ③ 宮古地区 (津軽石・赤前工区)
- ④ 山田地区 (豊間根・山田北工区)
- ⑤ 山田地区 (大沢工区)
- ⑥ 山田地区 (織笠工区)
- ⑦ 山田地区 (大浦工区)
- ⑧ 山田地区 (小谷鳥工区)
- ⑨ 大船渡・釜石地区 (下野工区)
- ⑩ 大船渡・釜石地区 (下荒川工区)
- ⑪ 大船渡・釜石地区 (吉浜工区)
- ⑫ 陸前高田地区 (下矢作工区)
- ⑬ 陸前高田地区 (小友工区)
- ⑭ 陸前高田地区 (高田沖工区)
- ⑮ 広田地区

うべがわ
宇部川地区（1～4ブロック）

【事業概要】

- 所在地 久慈市宇部町及び九戸郡野田村野田地内
- 総事業費 1,749 百万円
- 工期 平成 24 年度～令和 2 年度（9 ヶ年）
- 整備内容

工種	数量	摘要
区画整理	52.2ha	30～50a 区画(田 51.0ha、畑 1.2ha)
用水路工	10,600m	BF300～600、大型 F 1000×700
排水路工	8,200m	HF300～700
道路工	5,400m	
暗渠排水工	51.0ha	ドレンレイヤー工法 巾 4.0～5.0m 砂利

- 負担割合

国庫	県	市・村	農家
77.5%	15.0%	7.5%	—

- 事業区分

宇部川地区では、「被災農地 17ha に対して整備面積が 100ha と大きく、認めるのは難しい」とのことから、谷内中川から海側の 53ha に面積を見直して採択。なお、申請から除外した農地は、経営体育成基盤整備事業で整備。



【工事の特徴】

- 地下水位が高く湿田化していたため、面工事着手前に仮排水路及び湧水処理等を実施。(2.1km)
- 一部の範囲で泥炭層が出現したことから、客土材により基盤を置換。(4.7 万 m³ /24.7ha)
- 上記 2 と異なる範囲において、営農再開後に地耐力不足が確認されたことから、客土材により基盤を置換。(6.4 万 m³ /3.4ha)
- これらの客土材は、三陸沿岸道路や河道掘削工事等で発生した残土を活用。(約 11 万 m³)

【営農の取組み】

- 被災前は、小区画ほ場で農家 1 戸当りの所有面積も小さく、農業者の減少・高齢化が進行。
- 今回の震災を契機に、土地利用管理調整のための営農組合を設立。
- 農業生産法人 1 法人、3 名の経営体を中心に、さらなる農地の利用集積を推進。
- 整備後の農地については、H28 年までに営農再開。

【事業スケジュール】

区分	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 1年度	R 2年度
業務内容	計画策定	法手続	実施設計	仮排水路工事	ほ場整備工事	確定測量	換地計画策定	換地計画決定	処分登記	補完・災害復旧工事
						補完工事	補完工事	補完工事		

【計画平面図】



【状況写真】



被災状況



施工状況



復旧状況



営農状況

みやこ せったい
宮古地区（摂待工区）

【事業概要】

- 所在地 宮古市田老字摂待地内
- 総事業費 819 百万円
- 工期 平成 24 年度～平成 28 年度（5 カ年）
- 整備内容

工種	数量	摘要
区画整理	20.9ha	20-30a 区画（田 18.8ha、畑 2.1ha）
用水路工	4,255m	BF300～500
排水路工	3,369m	HF300～600
道路工	2,229m	巾 4.0-5.0m 砂利

- 負担割合

国庫	県	市	農家
77.5%	21.5%	1.0%	—



【工事の特徴】

- 面的な広がりがある区域において、被災農地と非被災農地の区画整理を一体的に実施。
- 被災農地と非被災農地を一体的に整備し、小区画水田や湿害、狭幅な農道等を一体的に解消。
- 岩手県内の関連区画整理事業では最も早く復興・復旧に取り組み、平成 24 年に第 1 号工事を契約。

【営農の取組み】

- 平成 25 年に摂待地区農業機械管理組合が設立。
- 宮古市は、被災地域農業復興総合支援事業を活用して農業機械を購入し、摂待地区農業機械管理組合と管理委託を締結、農業機械をリースして営農でも支援。
- 平成 26 年から、多面的支払交付金を活用した農地や水路の適切な保全管理を実施。

【事業スケジュール】

区分	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
業務内容		調査計画 土地改良法手続	詳細測量設計・換地 第 1 号工事 第 2 号工事 (幹線用水路)	第 3 号工事	確定測量	換地計画書作成 権利者会議・登記 第 5 号工事 (補完)	

【計画平面図】



【状況写真】



被災状況 (H23.3)



施工状況 (H25.4)



復旧状況 (H27.5)



営農状況 (H27.10)

みやこ つがるいし・あかまえ
宮古地区（津軽石・赤前工区）

【事業概要】

- 1 所在地 宮古市赤前地内
- 2 総事業費 570百万円
- 3 工期 平成26年度～平成30年度（5カ年）
- 4 整備内容

工種	数量	摘要
区画整理	9.5ha	20-30a区画（田9.3ha、畑0.2ha）
用水路工	2,696m	パイプライン VU100～250
排水路工	1,453m	HF300～1300×700
幹線排水路	106m	大型水路（1700×800、1700×900）
道路工	2,104m	巾3.0-5.0m 砂利
暗渠排水工	8.8ha	ドレンレイヤー工法

5 負担割合

国庫	県	市	農家
77.5%	21.5%	1.0%	-



【工事の特徴】

- 1 津波被災を受けた農地のうち、点在する農地は原形復旧で整備し、比較的まとまりのある農地は、農地の利用集積に向け、ほ場整備事業により実施。
- 2 宮古市の再生可能エネルギープロジェクトによる太陽光発電施設整備の計画があったため、土地利用調整等により他工区より遅れて着手。

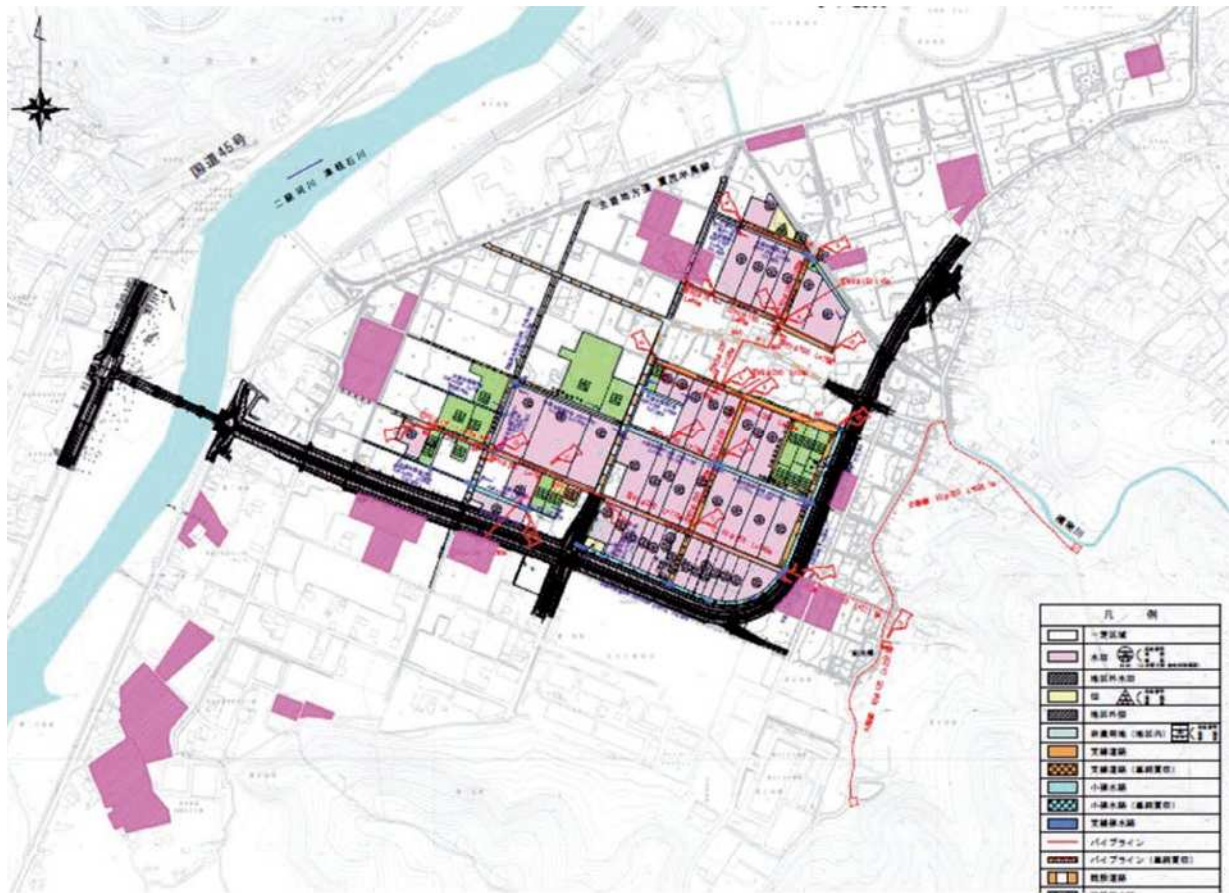
【営農の取組み】

- 1 平成27年に設立された任意組合の宮古東部ファームにより、平成29年に営農再開（転作作物）、し、平成30年からは整備した全面積で水稻を作付。
- 2 宮古市では被災地農業復興総合支援事業を活用し、平成27年に農業機械を導入するなど、宮古東部ファームを支援。
- 3 災害復旧事業により復旧した農地の一部において、他地域から担い手（1名）を確保し、ブロッコリーを栽培。
- 4 平成30年から、多面的支払交付金を活用した農地や水路の適切な保安全管理を実施。

【事業スケジュール】

区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
業務内容		土地利用構想との調整・ 営農構想・合意形成	土地改良手続	区画整理工事	補完工事	補完工事	補完工事
			詳細設計・換地原案	換地（確定測量・ 計画書作成）	換地（権利者会議・ 補分登記）		
		原形復旧工事			幹線用水路工事	土地改良手続（変更）	

【計画平面図】



【状況写真】



被災状況 (H23.3)



施行状況 (H29.4)



復旧状況 (H29.10)



営農状況 (H30.5)

やまだ とよまね
山田地区（豊間根工区）

【事業概要】

- 所在地 下閉伊郡山田町豊間根地内
- 総事業費 1,027 百万円（予定）
- 工期 平成 24 年度～令和 2 年度（予定）
- 整備内容

工種	数量	摘要
区画整理	40ha	20-30a 区画（田 40ha）
用水路工	8,842m	パイプライン VU100～500
排水路工	7,192m	HF300～800
道路工	3,719m	巾 4.0～3.0m 砂利

5 負担割合

国庫	県	町	農家
77.5%	21.5%	1.0%	—



【工事の特徴】

- 豊間根工区は豊間根団地と荒川団地の 2 団地で構成。
- 東日本大震災津波で浸水し地盤沈下した山田町内の他工区の農地の代替地として豊間根工区を選定。
- 山田町全体の農業生産力向上に向け、津波による農地の復旧に加えて、担い手を中心とする生産性の高い農業の実現に向け他事業（農村地域復興再生基盤総合整備事業）と併せて水田の大区画化を実施。
- 令和元年までに 2 団地の農地整備が終了し、令和 2 年の春には全面積を水稻作付。

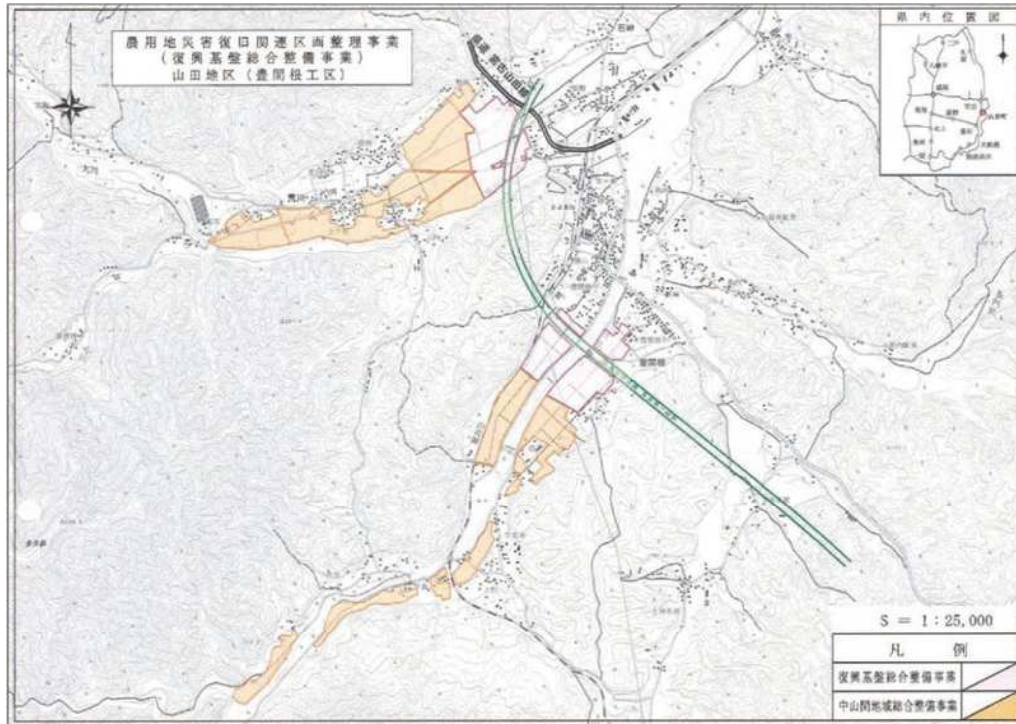
【営農の取組み】

- 担い手（8 名）を地区内から選出し、農地の利用集積を促進。
- 平成 29 年に農地中間管理事業を導入し、農地利用集積を加速。
- 多面的機能支払交付金を活用した農地や水路の適切な保全管理をするとともに、地区周辺の水路等の整備を実施。

【事業スケジュール】

区分	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
業務内容		土地利用構想との調整・ 営農構想・合意形成	土地改良手続	区画整理工事	補完工事	補完工事	補完工事		
			詳細設計・換地原案	換地（確定測量・ 計画書作成）	換地（権利者会議・ 処分登記）	土地改良手続（変更）			
		原形復旧工事		幹線水路工事					

【計画平面図】



【状況写真】



整備前 (H29.3)



施工状況 (H30.2)



復旧状況 (H30.4)



営農状況 (R1.5.10)

やまだ おおさわ
山田地区 (大沢工区)

【事業概要】

- 所在地 下閉伊郡山田町大沢地内
- 総事業費 83 百万円
- 工期 平成 25 年度～平成 29 年度（5 カ年）
- 整備内容

工種	数量	摘要
区画整理	3.3ha	20-30a 区画（田 3 ha、畑 0.3ha）
用水路工	420m	BF250
排水路工	197m	自由勾配側溝 400 × 900 ～ 1,200
道路工	195m	巾 4.0-3.0m 砂利

- 負担割合

国庫	県	市	農家
77.5%	21.5%	1.0%	—



【工事の特徴】

- 平成 24 年に原形復旧し、担い手農家による作付（大豆）を実施。
- しかし、小区画、湛水（排水不良）、水田間の移動が困難等の理由から、換地を伴わない区画整理を実施（畦畔除去による区画拡大、湛水部基盤高上げ、用排水路据え直し等）し、営農上の困難を解消。

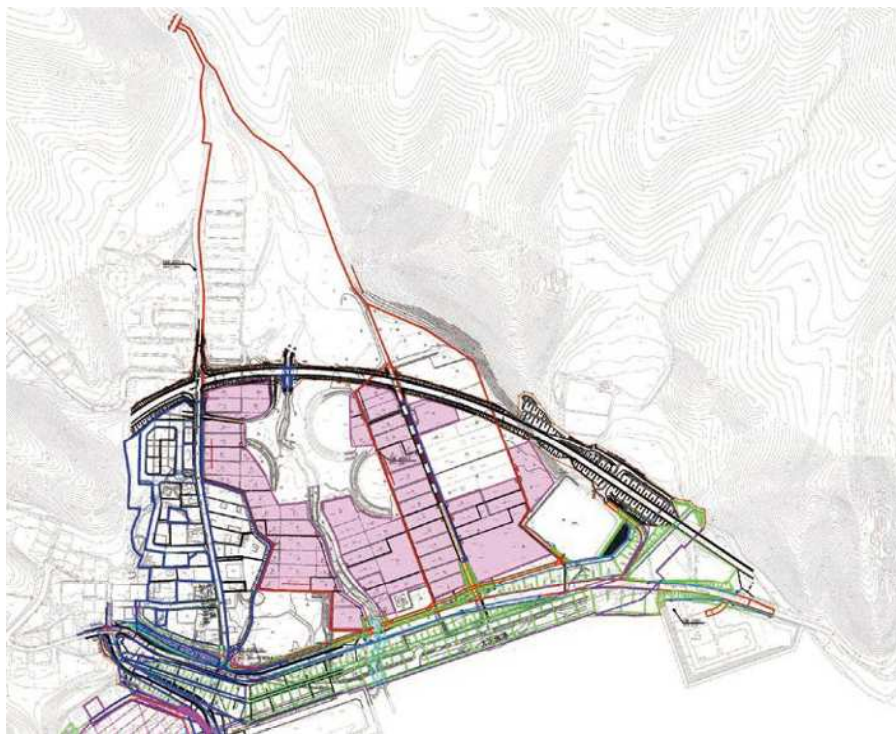
【営農の取組み】

- 貸借契約により担い手 1 名が大豆を作付け。
- 山田町が被災地農業復興総合支援事業を活用して平成 25 年に農業機械を導入し、耕作する担い手に貸し出し。
- 平成 28 年から復興事業により整備された農地で営農を再開（大豆）。

【事業スケジュール】

区分	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度
業務内容		合意形成・計画策定	土地改良手続	詳細測量設計	1号工事	2号工事（補完工）	
					営農再開		

【計画平面図】



【状況写真】



被災状況 (H23.3)



施工状況 (H26.10)



復旧状況 (H27.1)



営農状況 (H27.10)

やまだ おりかさ
山田地区（織笠工区）

【事業概要】

- 所在地 下閉伊郡山田町織笠地内
- 総事業費 965百万円
- 工期 平成24年度～平成29年度（6カ年）
- 整備内容

工種	数量	摘要
区画整理	18ha	20-30a区画（田17ha、畑1ha）
用水路工	3,146m	ベンチクリューム BF300～400
排水路工	2,899m	HF300～1,200×900
道路工	2,852m	巾4.0-3.0m 砂利

- 負担割合

国庫	県	市	農家
77.5%	21.5%	1.0%	—



【工事の特徴】

- 受益地が三陸沿岸道路（国土交通省）近隣に位置し、通行時に整備後の状況が一望。
- 面的なまとまりがあり、区画の拡大が可能なことから、原形復旧にとどまらず、生産性の高い農業の実現に向け区画整理を実施。
- 津波に強い農業を行うため、かさ上げ用基盤土を他の復興事業から約20万m³流用し水田を整備。

【営農の取組み】

- 山田町が被災地農業復興総合支援事業を活用し、平成25年に農業機械を導入して担い手に貸し出す体制を構築するとともに、近隣にミニライスセンターを整備。
- 区画整理後の農地の利用集積に向け、農地中間管理事業を導入。
- 平成28年から水稻作付を開始。

【事業スケジュール】

区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
業務内容	調査計画	詳細測量設計・換地原案			確側・換地計画書	権利者会議・処分登記	
	土地改良手続	第1号工事				第7号工事	
	第2号工事（仮設工）	第3号工事					
		第5号工事（水管橋）					
				第6号工事（集落道・補完工）			
					第8号工事（補完工）		
						第9号工事（補完工）	

【計画平面図】



【状況写真】



被災状況 (H23.3)



施工状況 (H26.10)



復旧状況 (H27.1)



営農状況 (H27.10)

やまだ おおoura
山田地区 (大浦工区)

【事業概要】

- 所在地 下閉伊郡山田町船越地内
- 総事業費 223 百万円
- 工期 平成 25 年度～平成 29 年度（5 カ年）
- 整備内容

工種	数量	摘要
区画整理	6ha	20-30a 区画（田 5 ha、畑 1 ha）
用水路工	756m	パイプライン VU75～200
排水路工	646m	HF300～900
	353m	一体型柵渠 1600×1500
道路工	1,392m	巾 4.0-3.0m 砂利

- 負担割合

国庫	県	市	農家
77.5%	21.5%	1.0%	—



【工事の特徴】

- 水田がまとまっており、大区画化が可能なことから原形復旧にとどまらず、生産性の高い農業の実現に向けた区画整理を実施。
- 現況の水田に石礫が多数確認されたことから、粒径処理工〈スケルトン工法〉を全区画に実施。
- 排水不良対策として、基盤土の盤上げと湧水処理を実施。

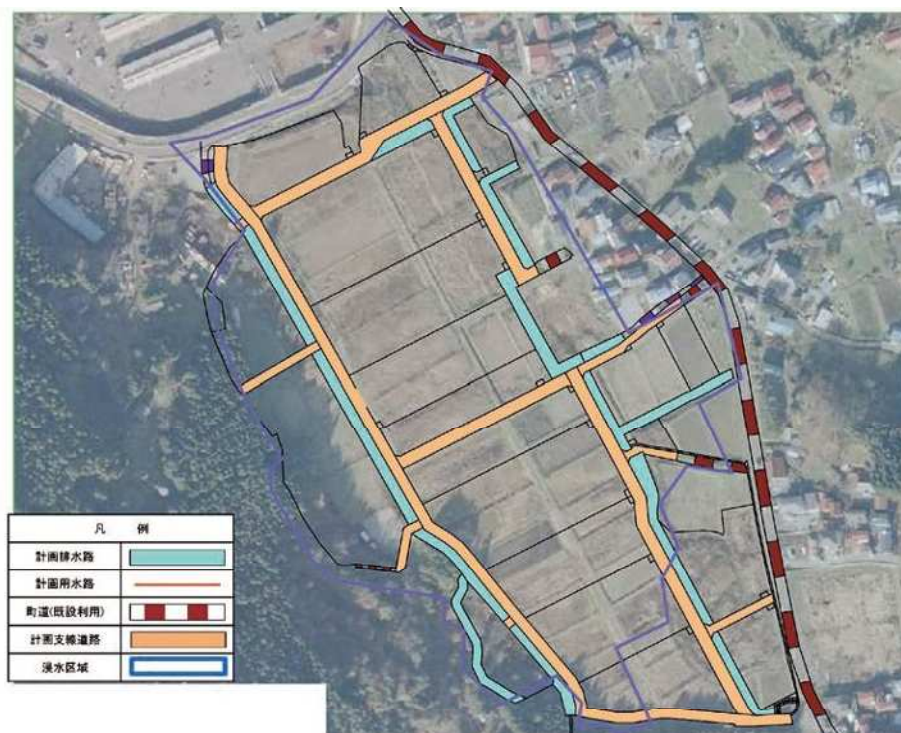
【営農の取組み】

- 山田町が被災地農業復興総合支援事業を活用し、平成 25 年に農業機械を導入して担い手に貸し出す体制を構築。
- 平成 28 年に 5.2ha 全域で営農再開（地力増進作物の作付）し、平成 29 年からは水稻作付開始。
- 区画整理後の農地の利用集積に向け、担い手（地区外 3 名）を確保。
- 平成 30 年から、多面的支払交付金を活用した農地や水路の適切な保全管理を実施。

【事業スケジュール】

区分	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度
業務内容	合意形成・計画策定	測量設計・換地原案 土地改良法手続		第 1 号工事（区画）	第 2 号工事（石礫除去） 第 3 号工事（粒径処理） 第 4 号工事（粒径処理）	確側・換地計画書・権利者会議・登記 第 5 号工事（補完工）	

【計画平面図】



【状況写真】



被災状況 (H23.5)



施工状況 (H27.6)



復旧状況 (H27.10)



営農状況 (H29.9)

やまだ 山田地区 (こやどり 小谷鳥工区)

【事業概要】

- 所在地 下閉伊郡山田町船越地内
- 総事業費 509百万円
- 工期 平成24年度～平成28年度（5カ年）
- 整備内容

工種	数量	摘要
区画整理	8ha	30-50a区画（田7ha、畑1ha）
用水路工	1,289m	パイプライン VU75～250
排水路工	1,288m	HF300～800
道路工	1,324m	巾4.0-5.0m 砂利

5 負担割合

国庫	県	市	農家
77.5%	21.5%	1.0%	—



【工事の特徴】

- 地盤沈下（最大で約1.0m）により高潮時に下流部が湛水するため、地盤の高上げが必要。
- 面的なまとまりがあり、区画の拡大が可能なことから、原形復旧にとどまらず、生産性の高い農業の実現に向け区画整理を実施。
- 地区内に希少植物（ヤナギトラノオ・イトモ）が生育していたことから、委員会や専門家の意見を確認しながら、移植等を実施。

【営農の取組み】

- 山田町が被災地農業復興総合支援事業を活用し、平成25年に農業機械を導入して担い手に貸し出す体制を構築。
- 区画整理後の農地の利用集積に向け、担い手（地区外2名）を確保。
- 主にWCSを栽培し、畜産との複合経営を展開。
- 平成30年から、多面的支払交付金を活用した農地や水路の適切な保安全管理を実施。

【事業スケジュール】

区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
業務内容	調査計画・詳細設計・換地		確定測量・登記等				
	土地改良法 手続	第1号工事	第3号工事 (区画整理)	第4号工事 (法面)	第5号工事 (補完工)	第6号工事 (排水路工)	

【計画平面図】



【状況写真】



被災状況 (H23.3)



施工状況 (H25.4)



復旧状況 (H27.5)



営農状況 (H27.9)

おおふなと・かまいし しまの
大船渡・釜石地区（下野工区）

【事業概要】

- 1 所在地 上閉伊郡大槌町大槌地内
- 2 総事業費 187百万円
- 3 工期 平成26年度～29年度（4ヵ年）
- 4 整備内容

工種	数量	摘要
区画整理	5.6ha	20-30a区画（田5.2ha、畑0.4ha）
用水路工	1,250m	BF300～400
排水路工	886m	HF300
道路工	653m	巾4.0m 砂利
暗渠排水工	5.6ha	ドレンレイヤー工法

5 負担割合

国庫	県	市	農家
77.5%	21.5%	1.0%	—



【工事の特徴】

- 1 復興交付金を活用し、農地の原形復旧にとどまらず、区画拡大等を行うほ場整備を導入。
- 2 津波により表土が流出するとともに、10cm程度ガレキ混じりの土砂が堆積。
- 3 堆積土の搬出と表土の搬入が必要となったことから、他の復興関連事業で発生する残土を活用。
- 4 水源となる河川（大槌川）は水量に乏しく、被災前も補水に伏流水を利用していただけから、補水用水源として揚水ポンプを設置。

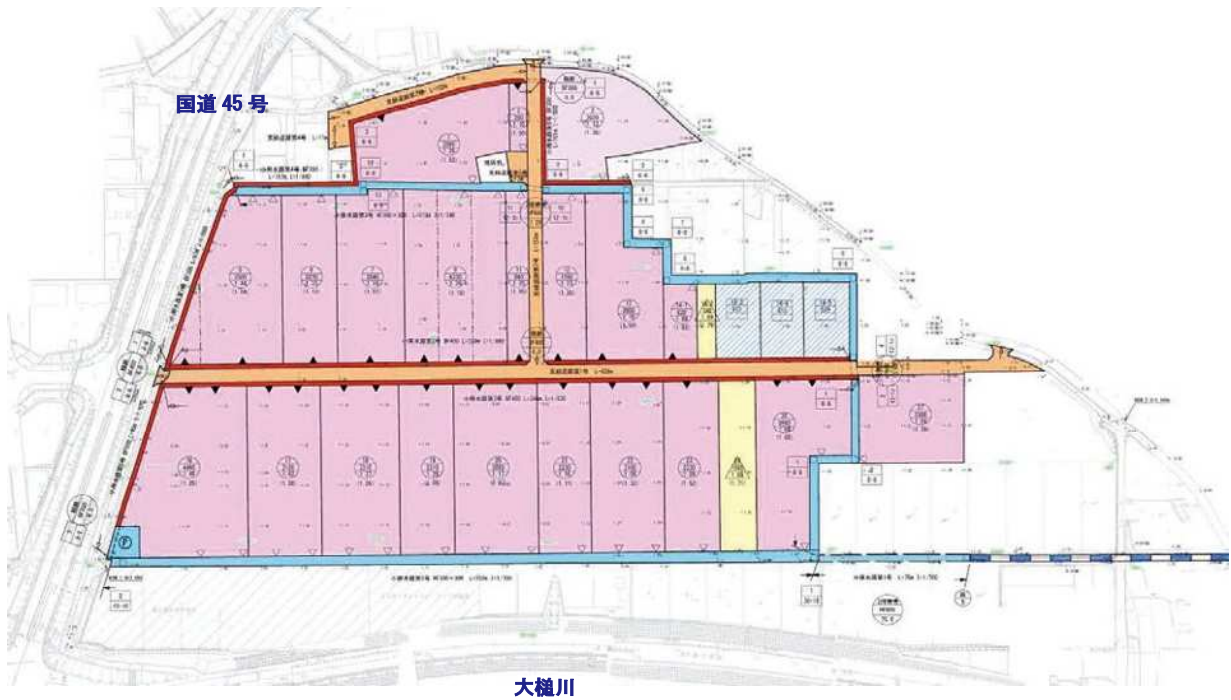
【営農の取組み】

- 1 平成28年春に全ての農地で営農を再開。
- 2 農事組合法人「結ゆい」（平成27年7月設立）が地区の農地約4haを集積し、酒米・キャベツ・ソバを作付け。
- 3 新規園芸作物の導入に向け、被災地域農業復興総合支援事業を活用し、パイプハウスや生産資材の整備を実施。
- 4 トマトとソバにおいては国の先端技術導入事業を近隣で取り組んでおり、当地区にも活用できるよう調整。

【事業スケジュール】

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
業務内容		法手続き		
	調査設計	実施設計		
		ほ場整備工事		暗渠排水工事
		換地原案・一時利用地指定		換地計画・確定測量・換地処分

【計画平面図】



【状況写真】



被災状況 (H23.3)



施工状況 (H28.2)



復旧状況 (H28.5)



酒米収穫状況 (H28.10)

おおふなと・かまいし しもあらかわ
大船渡・釜石地区（下荒川工区）

【事業概要】

- 1 所在地 釜石唐丹地内
- 2 総事業費 276 百万円
- 3 工期 平成 24 年度～ 27 年度（4 ヶ年）
- 4 整備内容

工種	数量	摘要
区画整理	8.0ha	20-30a 区画（田 7.0ha、畑 1.0ha）
用水路工	1,563m	BF300 ～ 350
排水路工	1,856m	HF300 × 300 ～ 1000
道路工	918m	巾 4.0-5.0m 砂利

- 5 負担割合

国庫	県	市	農家
77.5%	21.5%	1.0%	—



【工事の特徴】

- 1 地震により約 1 m の地盤沈下が発生したほか、津波によりガレキが堆積。
- 2 大量の盛土材が必要となったことから、他事業で発生する残土を活用。

【営農の取組み】

- 1 地域の話し合いの結果、釜石市初の本格的な営農組合を設立（唐丹地区営農組合）。
- 2 農地利用集積を図るとともに、各種補助事業により機械等を導入するなど、営農再開に取り組む。
- 3 平成 26 年には、整備した全ての農地で作付け開始。

〔唐丹地区営農組合の概要〕

- ・ 設立年月：平成 29 年 9 月設立（組合員数 16 名）
- ・ 作付品目：水稲（いわてっこ）、加工用とまと 等

【事業スケジュール】

区分	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
業務内容	事業計画書作成	法手続き	測量設計	確定測量 換地処分	補完工事
		ほ場整備工事			

【計画平面図】



【状況写真】



被災状況 (H23.3)



施工状況 (H25.7)



復旧状況 (H25.3)



営農状況 (H26.8)

おおふなと・かまいし よしほま
大船渡・釜石地区（吉浜工区）

【事業概要】

- 1 所在地 大船渡市三陸町吉浜地内
- 2 総事業費 1,942 百万円
- 3 工期 平成 24 年度～ 29 年度（6 カ年）
- 4 整備内容

工種	数量	摘要
区画整理	44.0ha	20-30a 区画（田 37.0ha、畑 7.0ha）
用水路工	9,500m	パイプライン VU・VP75～300 BF300
排水路工	8,100m	HF300～1300
道路工	7,400m	巾 5.0-4.0m 砂利
集落道工	528m	巾 4.0m 敷砂利

- 5 負担割合

国庫	県	市	農家
77.5%	21.5%	1.0%	—



【工事の特徴】

- 1 地震により約 1 m の地盤沈下が発生したほか、津波により表土が流出。
- 2 大量の盛土材が必要となったことから、他事業で発生した残土を活用（29 万 m³）。
- 3 海岸堤防、市道改良、公園整備等との工程調整を行い、工事を進捗し、平成 27 年で区画整理を完了。
- 4 隣接する海岸堤防が原形高さで復旧することを踏まえ、区画計上や道路計画は津波被害軽減に配慮。

【営農の取組み】

- 1 被災前は小区画ほ場で農家 1 戸当りの所有面積も小さく、農業者の減少・高齢化が進展。
- 2 震災を契機に地域農業の復興について話し合いを行い、経営再開マスタープランを策定（平成 25 年 7 月）。
- 3 将来は営農組織の設立を目指しており、3 名の経営体を中心に農地を利用集積。

【事業スケジュール】

区分	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
業務内容	事業計画書作成	法手続き					計画変更
		測量設計			大野確定測量	吉浜確定測量	換地処分
		吉浜ほ場整備工事				換地処分	
			大野ほ場整備工				
				道路工・排水路工・補完工		補完工	補完工

【計画平面図】



【状況写真】



被災状況 (H23.3)



施工状況 (H25.3)



復旧状況 (H27.5)



営農状況 (H28.9)

りくぜんたかた しもやはぎ
陸前高田地区（下矢作工区）

【事業概要】

- 所在地 陸前高田市矢作地内
- 総事業費 549 百万円
- 工期 平成 24 年度～ 27 年度（4 ヶ年）
- 整備内容

工種	数量	摘要
区画整理	20.0ha	30a 区画（田 18.0ha、畑 2.0ha）
用水路工	4,700m	パイプライン VU100～400
排水路工	4,147m	HF300～800
道路工	3,000m	巾 5.0-4.0m 砂利

5 負担割合

国庫	県	市	農家
77.5%	21.5%	1.0%	—



【工事の特徴】

- 津波により表土が流出したため、工事区域内の比較的石レキが含まない基盤土を表土に流用。
- それでも不足した表土は、がれきを取り除いた“がれき分別土”を活用。
- 地震による地盤沈下に伴い、排水に支障のある区域は、がれき分別土や高台移転造成工事で発生する残土を基盤土に活用した盤上げを実施。

【営農の取組み】

- 基幹作業は、主に既存の機械利用組合が営農。
- 農業機械の共同利用、農作業の受委託等を実施。
- 平成 26 年に、整備した全ての農地で作付け開始。

【事業スケジュール】

区分	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
業務内容	事業計画書作成	法手続き	測量設計	計画変更	確定測量 換地処分 暗渠排水 補完工事
			ほ場整備工事		

【計画平面図】



【状況写真】



被災状況 (H23.3)



施工状況 (H26.2)



復旧状況 (H26.5)



営農状況 (H26.9)

りくぜんたかた おとも
陸前高田地区（小友工区）

【事業概要】

- 1 所在地 陸前高田市小友地内
- 2 総事業費 2,695 百万円
- 3 工期 平成 24 年度～ 28 年度（5 ヶ年）
- 4 整備内容

工種	数量	摘要
区画整理	90.3ha	30-50a 区画（田 89.5ha、畑 0.8ha）
用水路工	16,090m	パイプライン VU・VP75～450
排水路工	16,842m	HF300×300～2200×1300
道路工	12,045m	巾 5.0-4.0m 砂利
暗渠排水工	90.3ha	ドレンレイヤー工法

5 負担割合

国庫	県	市	農家
77.5%	21.5%	1.0%	—



【工事の特徴】

- 1 復興交付金事業を活用し、農地の原形復旧にとどまらず、区画拡大等を行う、ほ場整備事業を導入。
- 2 平成 26 年に 86ha、平成 27 年には 90.3ha 全ての農地で営農を再開。

【営農の取組み】

- 1 平成 26 年 3 月、小友集落（耕地面積 232ha）における営農再開マスタープランを策定。
- 2 安全・安心な食料の持続的な提供や農家所得の向上による地域農業の維持・発展を目指し、既存の 4 組織（水利組合、稲作組合、転作組合、機械利用組合）をまとめ、農事組合法人「サンファーム小友」を設立（平成 26 年 3 月）。
- 3 サンファーム小友は、農地中間管理事業を活用し、平成 30 年はほ場整備区域のほか約 100ha の農地を集積。
- 4 新たな地域農業の確立に向け、新規園芸作物の導入拡大（にんにく、たまねぎ）や、新たな販路開拓や地域で採れた農作物の販売など 6 次産業化の取組のほか、多面的機能支払交付金を活用した農地や水路の適切な保全管理を実施。

【事業スケジュール】

区分	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
業務内容		計画書作成 法手続き 測量設計	ほ場整備工事	測量設計 暗渠排水 確定測量	計画変更 暗渠排水 確定測量	補完工 確定測量 換地処分

【計画平面図】



【状況写真】



被災状況 (H23.3)



施工状況 (H26.1)



復旧状況 (H26.5)



営農状況 (H26.9)

りくぜんたかた たかたおき
陸前高田地区（高田沖工区）

【事業概要】

- 所在地 陸前高田市気仙町地内
- 総事業費 941 百万円（予定）
- 工期 平成 28 年度～令和 2 年度（4 ヶ年）
- 整備内容

工種	数量	摘要
区画整理	28.3ha	30-50a 区画（田 27.5ha、畑 0.8ha）
用水路工	4,846m	パイプライン VU φ 100～400
排水路工	3,632m	HF300×300～800×800
道路工	5,256m	巾 5.0-3.0m 砂利
暗渠排水工	28.3ha	ドレンレイヤー工法

5 負担割合

国庫	県	市	農家
77.5%	21.5%	1.0%	—



【工事の特徴】

- 東日本大震災津波により、高田沖工区の全ての農地（約 28ha）が浸水し、表土の流出や地盤沈下など甚大な被害が発生。
- 当初、災害復旧事業を予定していたが、岩手県では、単なる農地の原形復旧に止まらず、生産性・収益性の高い農業を実現するため、ほ場整備による復旧・整備に向けた地元合意形成を図り、平成 28 年 12 月の復興交付金事業で採択が決定。
- 陸前高田市が、土地区画整理事業の嵩上用盛土材の仮置場として高田沖地区の農地の平成 30 年 2 月まで使用。その後、市から農地の引渡しを受け、4 月からほ場整備工事に本格着手。
- 陸前高田市が中心となり、土地所有者と耕作者との利用調整を進め、令和元年 5 月から営農再開。
- 令和 2 年 10 月に権利者会議を終え、現在は補完工を実施しており、令和 2 年度末の完成を予定。

【営農の取組み】

- 陸前高田市の地域限定品種「たかたのゆめ」のブランド化研究会構成員が中心となって、主に水稻を作付。

【事業スケジュール】

区分	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
業務内容		関係機関協議等 (土地区画整理事業等)		実施設計		ほ場整備工事	暗渠排水工 補完工事
						確定測量	確定測量 換地処分

【計画平面図】



【状況写真】



被災状況 (H23.6)



施工状況 (H30.10)

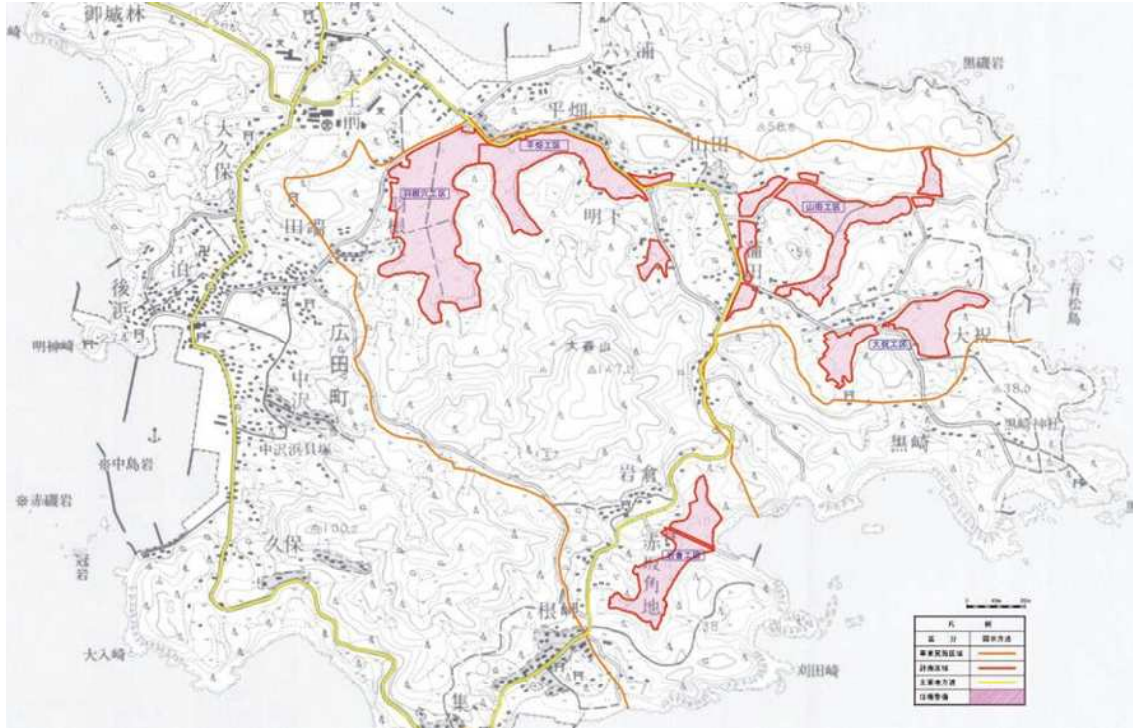


復旧状況 (H31.1)



営農状況 (R1.6)

【計画平面図】



【状況写真】



被災状況_岩倉工区 (H23.3)



施工状況_平畑工区



復旧状況_羽根穴工区



営農状況_岩倉工区